

公益財団法人  
**鉄鋼環境基金ニュース**  
2011年4月1日 第49号

**2011年度 環境助成研究の募集について**

公益財団法人 鉄鋼環境基金（理事長 西村 博文 JFEスチール(株)常務執行役員）は、2011年度の研究助成事業を決定し、4月1日に募集要綱を公表いたしました。

募集期間は例年通り4月～5月の2ヶ月間で、技術委員会の選考審査を経て、10月下旬頃の理事会で助成研究を決定します。

2011年度の助成研究募集要綱の概要は以下の通りです。（募集要綱の詳細は、本財団のホームページに掲載しております。）

1. 募集期間

2011年4月1日から5月31日まで。

2. 応募資格

(1) 一般研究助成：日本国内にある組織に所属する研究者。

(2) 若手研究助成：日本国内にある組織に所属する研究者で、2011年4月1日現在満年齢35歳以下の者。

★応募は一人一件とする。

3. 助成の対象となる研究

一般研究助成、若手研究助成とも、**鉄鋼製造に関連する環境保全技術課題に関する研究**を助成対象とします。具体的な技術課題については、4. に、また、この中で特に関心のある技術課題については、5. に示します。なお、若手研究助成については、より基礎的な研究についても助成対象とします。

4. 環境保全技術課題の具体例

(1) 大気環境保全技術

- ① 大気環境対策技術の省エネルギー化、低コスト化及び高効率化
- ② 固定発生源起源の浮遊粒子状物質（SPM）及び微小粒子状物質（PM2.5）
- ③ ニッケル化合物の測定分析法

(2) 水質保全技術

- ① 水処理技術の省エネルギー化、低コスト化及び高効率化
- ② 重金属の生態・生体影響評価及び除去・回収技術
- ③ 土壤汚染に関する測定技術、影響評価手法及び汚染土壤浄化技術
- ④ アンモニア性窒素及び硝酸性・亜硝酸性窒素の除去・回収技術
- ⑤ 閉鎖性海域の底泥、海底窪地の環境影響評価
- ⑥ 鉄鋼関連技術・鉄鋼副産物等を利用した水質浄化技術

(3) 副産物の利用促進技術

- ① 鉄鋼スラグ（高炉スラグ、転炉スラグ、電気炉スラグ等）の高付加価値化及び利用技術
- ② 鉄鋼スラグの海域利用等における環境創造・環境影響評価
- ③ 鉄鋼ダスト、鉄鋼スラッジ、鉄鋼スラグ等からの鉄、ニッケル、亜鉛、りん等の有価物の濃縮・分離・回収技術
- ④ 鉄鋼発生物の減量化、減容化及び再利用技術

(4) 地球環境問題

- ① 鉄鋼製造プロセスにおける廃エネルギー・新エネルギー利用等抜本的な二酸化炭素排出削減技術
- ② 鉄鋼副生ガス等からの水素製造技術
- ③ 二酸化炭素の分離・固定化・隔離技術

④ 発展途上国に適用可能な環境技術

(5) エコプロセス

- ① 環境汚染物質の発生を抑制・極小化する鉄鋼製造関連技術
- ② 鉄鋼製造プロセスにおける廃棄物利用技術
- ③ 循環型社会の構築やエココンビナートの実現に資する鉄鋼関連技術及び産業間連携技術
- ④ リサイクル進展に伴う不要・有害成分濃縮への対応技術

5. 特に関心のある技術課題

上記技術課題の中で、現在、鉄鋼業が特に関心を持っているのは以下の課題である。

- (1) 固定発生源起源の浮遊粒子状物質 (SPM) 及び微小粒子状物質 (PM2.5)
- (2) 重金属の生態・生体影響評価及び除去・回収技術
- (3) 鉄鋼スラグ (高炉スラグ、転炉スラグ、電気炉スラグ等) の高付加価値化及び利用技術
- (4) 鉄鋼スラグの海洋利用等における環境創造・環境影響評価
- (5) 鉄鋼製造プロセスにおける廃エネルギー・新エネルギー利用等抜本的な二酸化炭素排出削減技術
- (6) 二酸化炭素の分離・固定化・隔離技術

6. 研究期間

助成研究の実施期間は、原則として2011年11月から2012年10月までの1年とします。  
一般研究助成については3年まで、若手研究助成については2年まで継続申請ができます。  
研究期間の延長は、原則として認めません。

7. 助成件数

- (1) 一般研究助成：40件程度を目処とします。
- (2) 若手研究助成：15件程度を目処とします。

8. 助成金額

- (1) 一般研究助成：原則として1件当たり150万円/年以下とします。  
ただし、3年目の継続研究は、原則として1件当たり100万円/年以下とします。
- (2) 若手研究助成：原則として1件当たり100万円/年以下とします。

9. 助成研究の選考・公表

本財団に設置している技術委員会の選考結果に基づき、10月下旬頃の理事会で決定し、本財団のホームページで公表します。

10. 申請手続

定められた様式の申請書を作成の上、E-mailにてファイル (Word、Excel 又はPDF) 添付により本財団に提出すること。申請書の作成方法、その他詳細については2011年度環境助成研究募集要綱によるものとします。

11. 申請書の提出期限：5月31日 (火) 必着



事務局だより

公益財団法人への移行登記

本財団は、公益認定等委員会の認定を受けて、2011年4月1日に公益財団法人の登記を行った。  
新名称は、「公益財団法人 鉄鋼環境基金」(英文名: Steel Foundation for Environmental Protection Technology) である。  
代表理事 (理事長) には、前財団法人の西村博文理事長が就任し、代表理事 (専務理事) には、前財団法人の青野照彦専務理事が就任した。

## 最初の評議員の就任

4月1日付けで、下記の10名が新公益財団法人の最初の評議員に就任した。

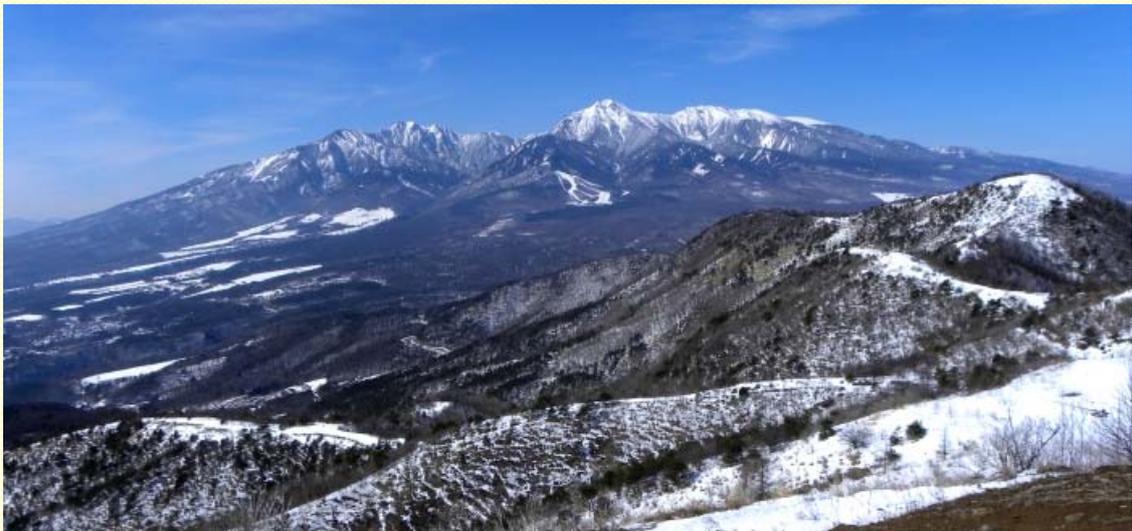
幸田 清一郎	上智大学 特別契約教授・東京大学 名誉教授
庄野 勝彦	(社)日本産業機械工業会 常務理事
波田野 純一	石油連盟 常務理事
山田 健司	新日鉄マテリアルズ(株) 社長
黒瀬 芳和	JFEスチール(株) スラグ事業推進部長理事
中島 英雅	住友金属工業(株) 常務執行役員
宮川 裕	(株)神戸製鋼所 環境防災担当役員補佐
安井 潔	日新製鋼(株) 執行役員周南製鋼所長
野村 一朗	大同特殊鋼(株) 技術部環境エネルギー室長
中島 正弘	普通鋼電炉工業会 事務局長

## 環境助成研究成果概要集の発行

2009年度助成分の研究成果概要集を発行いたしました。また、研究成果報告書データベース [FERAS] (本財団のホームページからアクセスできます。) に報告書フルペーパーとともに登録いたしましたので、ご活用下さい。

## 東北関東大震災発生のため、成果報告会中止

3月11日に発生した東北関東大震災を受けて、3月18日(金)に予定していた助成研究成果報告会<副産物分野(鉄鋼スラグ)>は、中止いたしました。成果報告を予定しておられた先生方にはご迷惑をおかけいたしました。被災者の皆様には、心からお見舞い申し上げます。



飯盛山(めしもりやま)より、八ヶ岳を望む。(2011.2.19.)

JR小海線清里駅より、飯盛山を目指す。氷点下の雪の登山道を簡易アイゼンをつけて登る。山頂からは、360度の展望を満喫。八ヶ岳、南アルプス、奥秩父の金峰山、浅間山が望めた。遠く中央アルプス、富士山も霞んで見えた。

鉄鋼環境基金ニュース 第49号

2011年4月1日発行

発行所：公益財団法人 鉄鋼環境基金

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3-2-10 鉄鋼会館6階

Tel : 03-5652-5144 Fax : 03-5641-2444

E-mail : aono@ceres.ocn.ne.jp URL : http://www8.ocn.ne.jp/~sept/

発行人：専務理事・事務局長 青野 照彦